

《最近の県内経済》(2022年6月を中心として)

令和4年8月18日

今月の概要

緩やかに持ち直している。

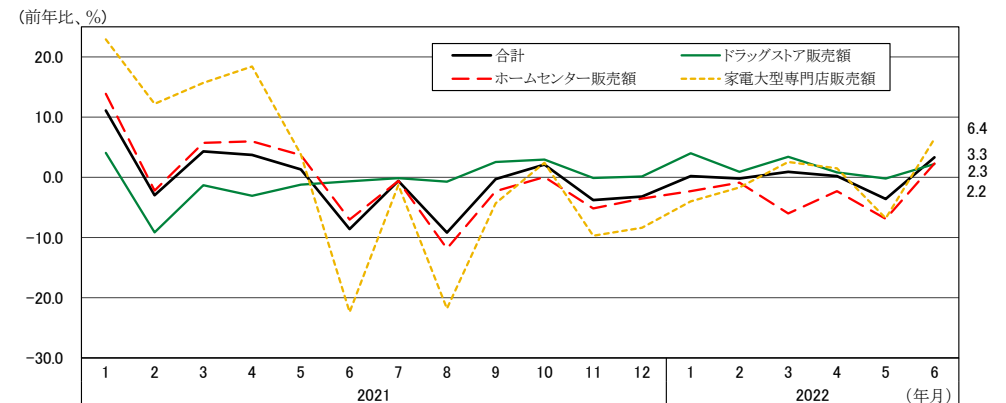
1 個人消費 ～持ち直しの動きが続いている

百貨店/スーパー/コンビニ販売額、乗用車販売台数【前年比】



(資料) 経済産業省、埼玉県自動車販売協会など

専門量販店販売額【前年比】



(資料) 経済産業省

個人消費は、持ち直しの動きが続いている。

6月の百貨店およびスーパーの販売額(店舗調整前)は、百貨店が125億円で前年比1.6%増(4か月連続の増加)、スーパーは958億円で同0.3%減(2か月連続の減少)となった。また、コンビニ販売は548億円で同3.3%増と、8か月連続の増加となった。

また、乗用車販売は、前年比9.8%減と12か月連続の減少となった。内訳をみると、普通車(同18.4%減)は10か月連続の減少、小型車(同11.6%減)も13か月連続の減少となったものの、軽乗用車(同2.5%増)は、13か月ぶりの増加となった。

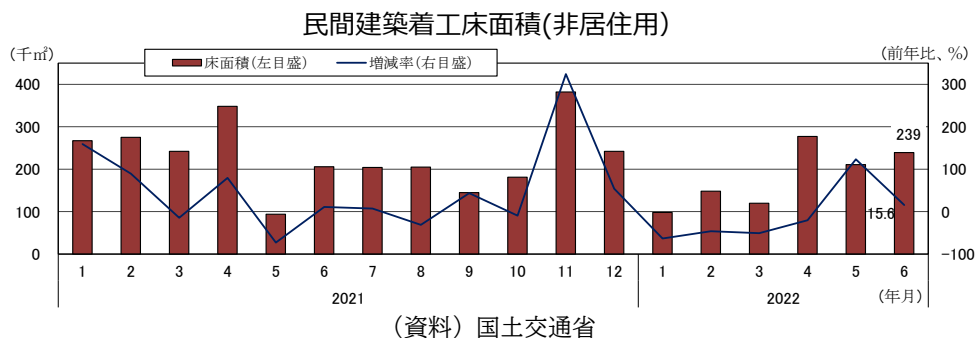
百貨店やスーパーでは、巣ごもり需要の減少と商品の価格高騰の影響で食料品は苦戦したものの、早い梅雨明けと連日の猛暑により季節商品などが売上に寄与した。

6月の専門量販店販売額は、762億円で前年比3.3%増となった。内訳をみると家電大型専門店が195億円で同6.4%増(2か月ぶりの増加)、ドラッグストアが385億円で同2.2%増(2か月ぶりの増加)、ホームセンターが182億円で同2.3%増(8か月ぶりの増加)となった。

家電量販店では、エアコンや扇風機などの季節商品や冷蔵庫などが堅調に推移した。

関東1都6県の消費者態度指数(原数値)は、5月<33.3>、6月<32.7>、7月<30.1>で推移している。

2 設備投資 ~持ち直している

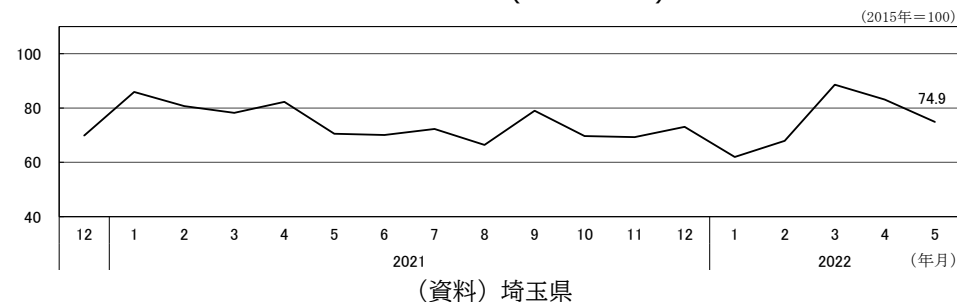


6月の民間建築着工床面積(非居住用)は、239千㎡で前年比15.6%増となった(5か月後方移動平均では前年比14.7%減)。

用途別にみると、店舗、学校の校舎が減少したものの、事務所、工場及び作業場、倉庫、病院・診療所はいずれも増加した。

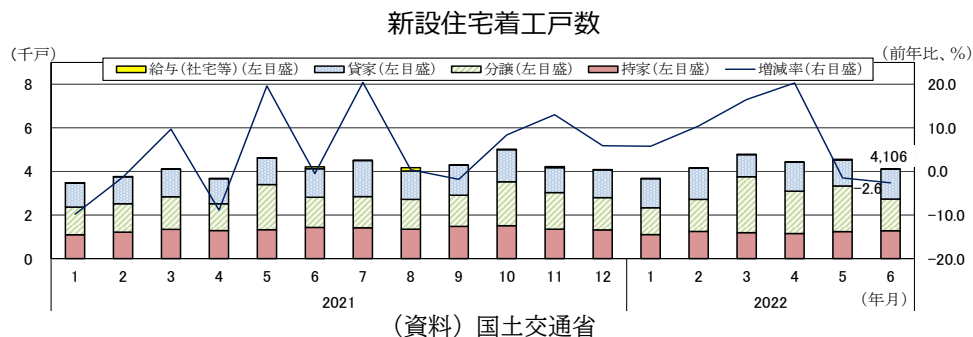
旺盛な半導体関連需要やEコマース関連需要に加えて、コロナ禍で見送りの案件の実行も幅広い業種でみられる。

資本財出荷指数(季節調整済)



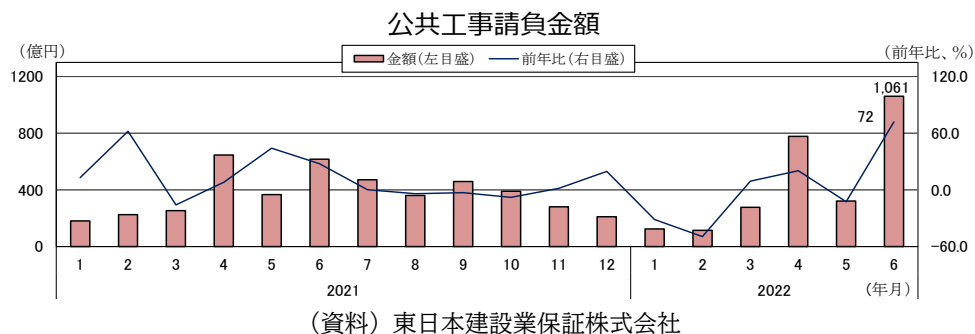
5月の資本財出荷指数(季節調整済)は74.9で、前月比9.9%減と2か月連続の減少となった(5か月後方移動平均では、前年比0.4%増)。

3 住宅建設 ~底堅い動きとなっている



6月の新設住宅着工戸数は、4,106戸で前年比2.6%減と2か月連続の減少となった(5か月後方移動平均では8.0%増、14か月連続の増加)。利用関係別にみると、分譲一戸建(1,355戸)が同17.3%増、貸家(1,368戸)が同4.8%増となったものの、持家(1,278戸)が同10.6%減、分譲マンション(112戸)が同55.2%減となった。

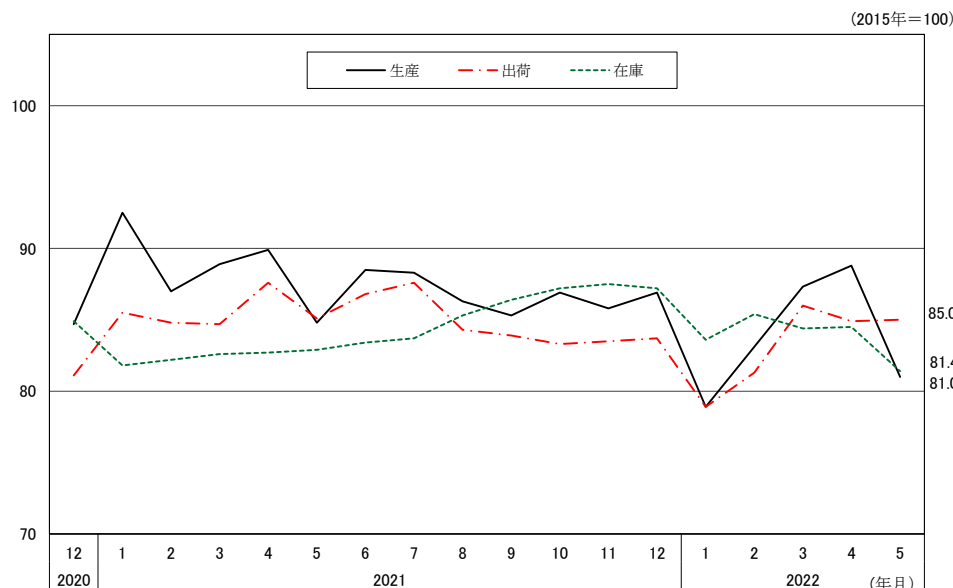
4 公共工事 ~持ち直している



6月の公共工事請負額は1,061億円、前年比72.0%増となり、5か月後方移動平均でも前年比21.0%増となった。発注者別でみると国、独立行政法人等、地方公社は減少したものの、都道府県、市区町村は増加した。

5 生産活動 ～持ち直しの動きがみられる

鉱工業生産・出荷・在庫指数(季節調整済)



(資料) 埼玉県

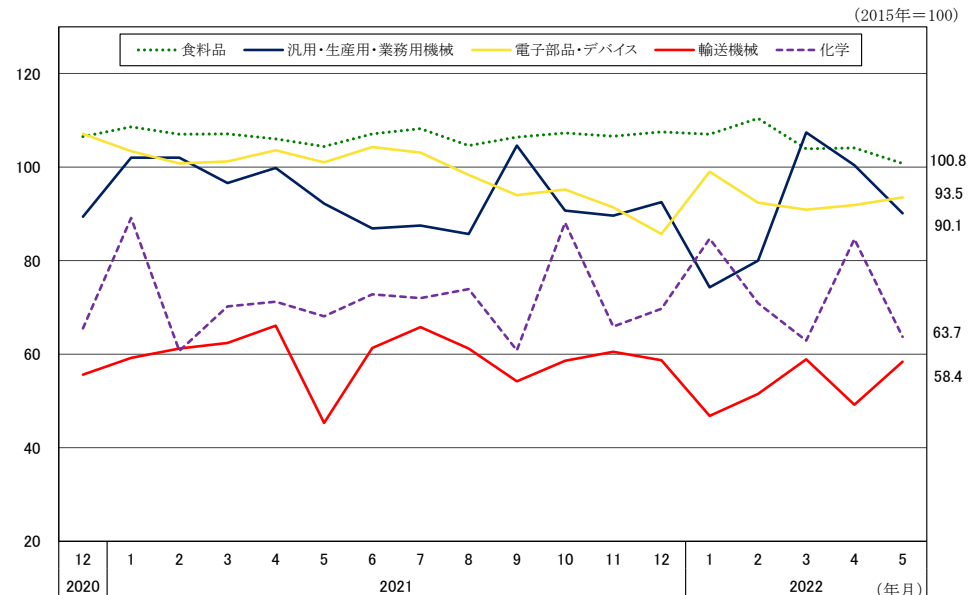
生産活動は、輸送用機械、業務用機械などを中心に持ち直しの動きがみられる。

5月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、81.0で前月比8.8%低下(4か月ぶりの低下)。輸送機械(自動車エンジン、乗用車)、業務用機械(パチンコ、医療用機械器具)などが上昇したが、情報通信機械(カーナビゲーション、カーオーディオ)、化学(医薬品、化粧品)などが低下した。

出荷指数(同)は、85.0で同0.1%上昇(2か月ぶりの上昇)。生産用機械(半導体製造装置、フラットパネル・ディスプレイ製造装置)、汎用機械(空気圧機器、固定比減速機)などが低下したが、輸送機械(自動車エンジン、乗用車)、業務用機械(パチンコ、医療用機械器具)などが上昇した。

在庫指数(同)は、81.4で同3.7%低下した(2か月ぶりの低下)。非鉄金属(伸銅製品、アルミニウム圧延製品)、電子部品・デバイス(混成集積回路、光電変換素子)などが上昇したが、輸送機械(乗用車、完成自転車)、化学(印刷インキ、合成樹脂塗料)などが低下した。

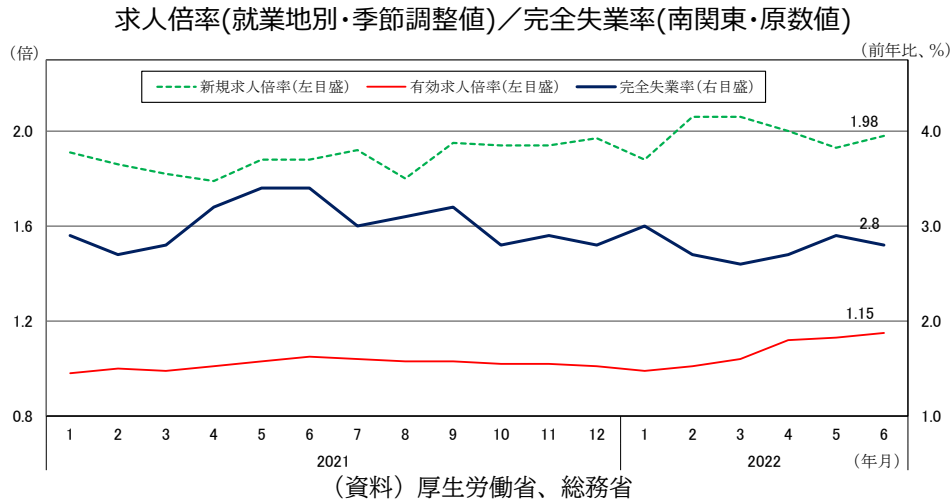
主要業種の生産指数(季節調整済)



(資料) 埼玉県

- ◆ 食料品の生産指数(季節調整済)は、100.8で前月比3.2%低下し、2か月ぶりの低下となった。
- ◆ 汎用・生産用・業務用機械(同)は、90.1で同10.3%低下し、2か月連続の低下となった。
- ◆ 電子部品・デバイス(同)は、93.5で同1.7%上昇し、2か月連続の上昇となった。
- ◆ 輸送機械(同)は、58.4で同18.7%上昇し、2か月ぶりの上昇となった。
- ◆ 化学(同)は、63.7で同24.7%低下し、2か月ぶりの低下となった。

6 雇用情勢 ～持ち直しの動きがみられる

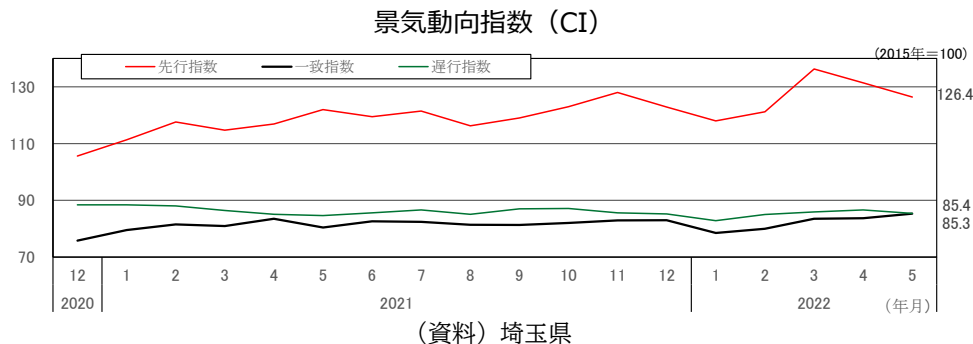


6月の有効求人倍率(就業地別、季節調整値)は、1.15倍で前月比0.02ポイント上昇した(5か月連続の上昇)。また、新規求人倍率(同)は、1.98倍で前月比0.05ポイント上昇した(2か月ぶりの上昇)。

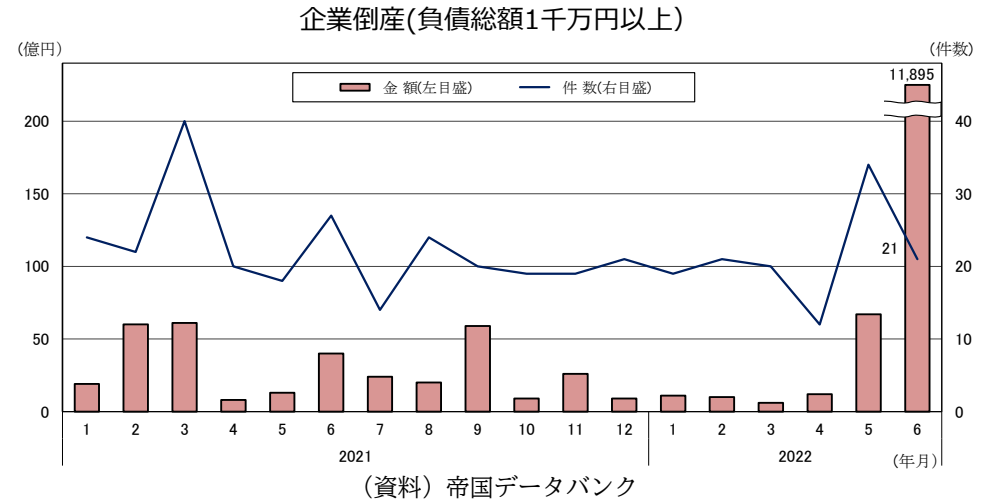
完全失業率(南関東、原数値)は、2.8%で前年同月比0.6ポイント低下した(前年同月比4か月連続の低下)。

〈参考〉

景気動向指数(CI) ～改善を示している



7 企業倒産 ～金額は大幅増加



大型倒産発生により負債金額が大幅に増加したものの、依然としてコロナ対策としての政府の資金繰り支援策もあって、低水準で推移している。

6月の企業倒産件数は、21件で前年同月比6件の減少となった。負債総額は1兆1,895億円で同1兆1,855億円の増加となった。

業種別にみると、建設業が最多で5件、次いで小売業が4件、製造業、卸売業、運輸・通信業がそれぞれ3件と続いている。主因別では、販売不振が18件となっている。